

配信先：大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会

2024 年 12 月 20 日

大阪公立大学

食道症状への心理的影響を調べる質問票の日本語版を開発 －症状改善に向け、より適切な治療の選択へ－

<概要>

胸やけやつかえ感などの食道症状は、胃酸逆流や食道の動きなどの客観的評価より、症状が起こるかもしれないという不安や高警戒^{*1}など、心理的要因が症状の強さに影響するといわれています。しかし一般的な心理状態を評価する質問票はあるものの、食道症状に特化したものではありませんでした。米国では 2018 年に、食道症状への不安や高警戒を評価する質問票「Esophageal Hypervigilance and Anxiety Scale (EHAS^{*2})」が開発されましたが、日本語版の開発や信頼性・妥当性の検討は行われておらず、日本では十分に使用できない状態でした。

大阪公立大学大学院医学研究科消化器内科学の沢田 明也病院講師、藤原 靖弘教授らの研究グループは、EHAS の開発者らの協力のもと、EHAS 日本語版を開発。国内 6 施設で食道内圧検査を受けた患者 432 人による、EHAS 日本語版や食道症状に関する質問票への回答結果を検討し、EHAS 日本語版の信頼性と妥当性が示されました。また、わずらわしい食道症状の原因となる食道アカラシア^{*3}や、類似疾患を持つ患者 113 人に対して、EHAS



への回答結果と症状の強さの相関を検証しました。その結果、EHAS スコアが高い患者ほど、症状を強く感じていることが分かりました。EHAS を用いて、心理的要因の影響が大きい食道症状をより正確に判断することで、適切な治療の提供につながることを期待されます。

本研究成果は、2024 年 12 月 9 日に国際学術誌「Journal of Gastroenterology」のオンライン速報版に掲載されました。

<掲載誌情報>

【発表雑誌】Journal of Gastroenterology

【論文名】Validation of the Japanese version of the Esophageal Hypervigilance and Anxiety Scale for Esophageal Symptoms

【著者】Akinari Sawada, Yoshimasa Hoshikawa, Hiroko Hosaka, Masahiro Saito, Hirotaka Tsuru, Shunsuke Kato, Eikichi Ihara, Tomoyuki Koike, Toshio Uraoka, Kunio Kasugai, Katsuhiko Iwakiri, Daniel Sifrim, John Erik Pandolfino, Tiffany H. Taft, Yasuhiro Fujiwara & Japan EHAS Study Group

【掲載 URL】<https://doi.org/10.1007/s00535-024-02193-w>

<研究の背景>

胸やけや逆流感、胸痛、つかえ感といった食道症状には、不安や高警戒といった心理的因子が関与することが知られています。不安や高警戒が強い状態では刺激に対して過敏となり、より強い症状を感じます。また、刺激がなくても症状を感じたり、生理的な刺激を症状として感じることもあります。

2018年に米国ノースウェスタン大学の Tiffany H. Taft 博士や John Erik Pandolfino 教授らのグループによって開発された質問票「Esophageal Hypervigilance and Anxiety Scale (EHAS)」は、食道症状に対する不安や高警戒を評価するためのものです。食道症状の強さには、客観的指標よりも EHAS のスコアが相関することが報告されており、症状の改善には不安や高警戒への治療介入が必要な症例が存在することを示唆しています。EHAS はすでに米国を中心に食道疾患に対して臨床応用されていますが、日本語版の開発と妥当性の検討は行われていませんでした。

<研究の内容>

本研究では、Tiffany H. Taft 博士と John Erik Pandolfino 教授の協力のもと、EHAS 日本語版を開発しました。そして、食道症状の精査のために国内の6施設（本学、日本医科大学、群馬大学、東北大学、九州大学、愛知医科大学）で食道内圧検査を受けた日本人患者432人に対する、EHAS 日本語版やその他の症状に関する各種質問票への回答結果から、EHAS 日本語版の信頼性と妥当性を検証しました。次に、未治療の食道アカラシアおよび類似疾患を有する患者113人を対象に、食道症状の強さに相関する因子について解析を行いました。

その結果、EHAS 日本語版のスコアは年齢やアカラシアのサブタイプとともに、食道内圧検査のパラメータ（客観的指標）よりも食道症状の強さに有意に相関する因子であることが明らかになりました。これは、EHAS 日本語版のスコアが高い（不安や高警戒が強い）ほど食道症状が強いことを示しており、既報と矛盾しない結果でした。

<期待される効果・今後の展開>

本研究により、EHAS 質問票を日本でも臨床・研究で使えるようになったことで、英語圏の施設との共同研究が可能となりました。米国では、不安や高警戒に対して心理学的な治療介入がよく行われていますが、EHAS スコアと治療効果の関係については十分な検証が行われていないため、今後はこれらの相関についても研究を進めていく必要があります。

<用語解説>

※1 高警戒…恐怖心によって感覚への注意や警戒が高まった状態。

※2 EHAS…食道症状に対する思いに関する15問からなる質問票で、各質問に対して「全くそう思わない（0点）」から「強くそう思う（4点）」の5段階で評価する。満点は60点となり、質問1～9の合計が不安、10～15の合計が高警戒のサブスコアとなる。

※3 食道アカラシア…食道と胃の境に存在する下部食道括約筋という筋肉の弛緩不全と、正常食道蠕動の欠如によって、食物がスムーズに食道から胃へ流れない良性疾患。つかえ感や胸痛、逆流感といった症状を引き起こす。

【研究内容に関する問い合わせ先】

大阪公立大学大学院医学研究科
病院講師 沢田 明也（さわだ あきなり）
TEL：06-6645-3811
E-mail：a.sawada@omu.ac.jp

【報道に関する問い合わせ先】

大阪公立大学 広報課
担当：竹内
TEL：06-6605-3411
E-mail：koho-list@ml.omu.ac.jp